

東北活性研ビジネスプロデューサー養成講座 「第7回・第8回ブラッシュアップ研究会」の開催

ビジネスプロデューサー養成講座及び、ビジネスアライアンス講座の修了生の交流とレベルアップを目的として「東北活性研ビジネスプロデューサー養成講座 第7回及び第8回ブラッシュアップ研究会」を開催した。

◆第7回ブラッシュアップ研究会

東日本大震災における原発の被害にあわれた地域の現状を知って欲しいという福島修了生の要望により、福島県浪江町を訪問。原発被災地域のために何が出来るか・継続して役立つビジネスモデルについて、役場の方のお話をもとに、意見交換を通して参加者で考えた。視察終了後には、参加者全員がレポートを提出した。

【開催概要】

開催日時：平成26年9月10日（水）7:30～17:30

実施場所：福島県浪江町

参加人数：30名

※参加者内訳 仙台1期生、2期生、3期生、5期生、6期生
福島修了生、岩手修了生、責任者、東京BP修了生 ほか

■行程

- | | |
|-------|------------------------------------------------------------------------|
| 7:30 | 仙台駅出発 |
| 8:45 | 福島駅着・出発
◆浪江町役場の方からのお話(バス社内にて)
・浪江町視察にあたっての事前説明
・浪江町の現状について 等々 |
| 10:30 | 浪江町内到着
◆町内視察
・請戸漁港周辺
・請戸小学校
・駅前通り 等々 |
| 13:15 | ◆意見交換会(浪江町役場会議室にて) |

■町内視察

◆請戸漁港周辺

昨年夏期より重機・作業員が立ち入り、数箇所です瓦礫の分別作業が行われている請戸漁港周辺。



【流された船はそのまま】



【瓦礫が山積みになっている】



【写真奥が海岸】



【請戸小学校から見た漁港周辺】

◆請戸小学校

校舎や体育館は津波の爪痕を残したまま。幸い生徒たちは1 km以上離れた高台に避難し全員が無事だった。



【廊下の様子】



【卒業式直前だった体育館】



【黒板に書かれた数々の応援メッセージ】

◆浪江町町内

バス車中より浪江町内を視察。街全体の風景は、3年半前の被災当時のまま、雑草に覆われている。





【人の手が入らなくなった街並み】

■意見交換会

浪江町役場にて、役場の方と共に、視察に伴う感想や意見交換を行った。



【浪江町役場入口】



【浪江町役場外観】



【意見交換会の様子】



【参加者】

■参加者の声～視察を終えての感想～

- 街づくりの前に浪江町の現状を広く日本・世界に知ってもらうことが重要。
- 東日本大震災の同じ被災地でも、放射能の影響があるかないかで、被災の状況が全く違うことを実感した。
- 現段階で町民の方々が「帰宅したい」とも「したくない」とも判断つかない割合が約40%ということで、未来を担う子ども達が選択（判断）できる環境に戻れると良いと思った。
- 同じ福島県内に住んでいるが、浪江町の現状を自分の目で確かめたのが初めてであり、少なからずショックを受けた。
- 役場の方の「復興は人が元に戻って住むこと」という言葉が印象的だった。
- 個人として企業として、何ができるのか、何をしていくべきか、考えていきたい。
- 震災直後に浪江町を訪問した頃と比べて、現在は作業車や作業員の方の姿が見え、「福島には希望がある」という印象を持てた。

参加者より「様々な意見があり時間が足りなかった」「改めて意見交換の場を設けて欲しい」「次回も、是非、福島県で開催して欲しい」という声があがり、第8回ブラッシュアップ研究会に続くこととなった。

◆第8回ブラッシュアップ研究会

第7回の研究会で浪江町を視察した参加者からの、意見交換の場で様々な意見があり時間が足りなかったという声を基に意見交換会を開催。

第7回の研究会の参加者が提出したレポートを基に、浪江町役場の方を招いて、役場の方々と共に、浪江町民の立場にたった今後の浪江町に役立つビジネスモデルについての意見交換会を行った。

【開催概要】

開催日時：平成26年11月7日（金）10:00～16:30

実施場所：福島テルサ 3階「あづま」

参加人数：23名

※参加者内訳 浪江町役場の方々
仙台2期生、3期生、4期生、5期生、6期生
福島修了生、岩手修了生



【意見交換会の様子】



【参加者】

■意見交換内容～主な意見～

福島に住んでいる以上無視は出来ない問題。前回視察をし、レポートを書いたことがきっかけで、このような意見交換をすることが、浪江町について考える一歩となった。

1年前に視察した当時の浪江町と状況が変化していた。浪江町について考えると共に震災当時の浪江町がここまで進んだということも発信して欲しい。

単純に復旧・復興と言って元に戻せば良いという問題ではない。人の気持ちに寄り添ったアイデアを出し、そのアイデアを実現するために、これで終わりではなく継続して考えていきたい。

浪江町民は工場やお金ではなく「誇り」を取り戻したいのでは。浪江町民の何割が将来戻ってくるのか分からないが、僅かな人数だったとしても、戻れるストーリーを作ってあげるべき。他の町でも出来るビジネスモデルでは意味がない。

浪江の今後（街づくり）を考えるうえで、コアが必要。それは、浪江町民の方々と一緒に、浪江の歴史を勉強することから始まる。